

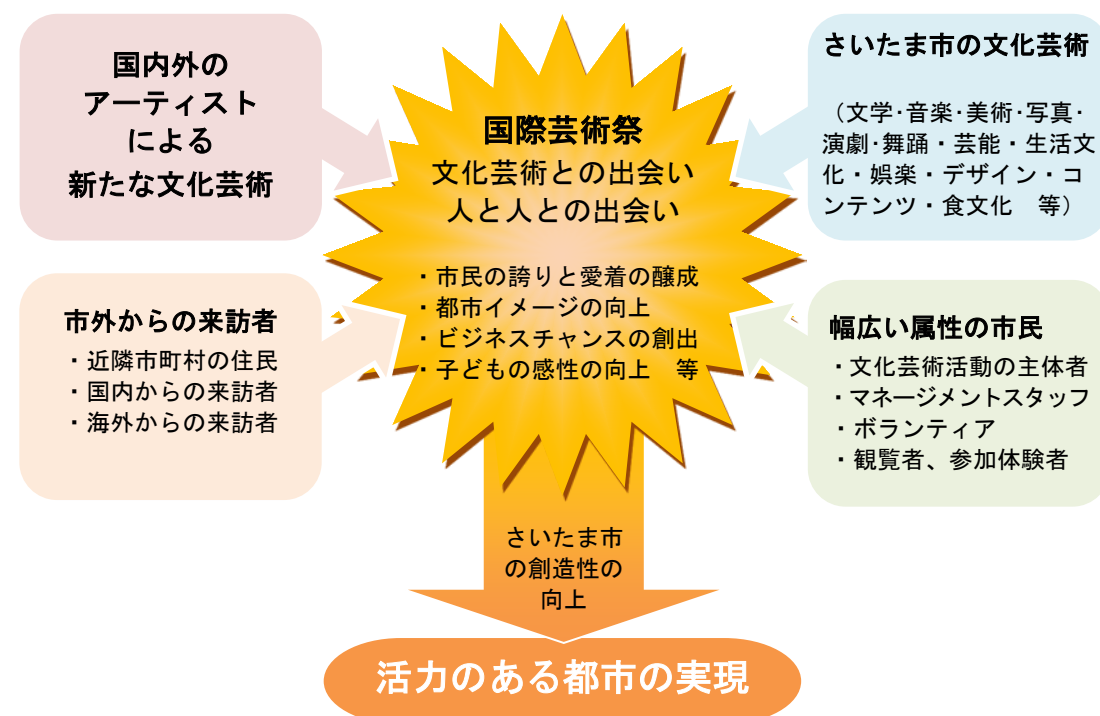
■シンボル事業のコンセプト

1 実施の意義 ～これまでのご意見を踏まえた整理～

- ①さいたま市は、市民が自主的に文化芸術に関する活動を行い、又は文化芸術を享受することにより市民の文化芸術以外の分野における活動が促進され、かつ、文化芸術の振興を契機として地域が活性化し、市民が充実した生活を送ることのできる活力のある都市（「文化芸術都市」）を目指している。
- ②文化芸術都市を創造するためには、市民の文化芸術活動の振興や本市の多彩な文化資源を活用した施策の地道な展開と併せて、文化芸術都市であることを発信・実感できるような、インパクトのある施策を展開することが必要であり、地域の活力はそれらの相乗効果によってもたらされるもの。
- ③シンボル事業は、本市の文化芸術を国内外に広く発信し、文化芸術都市を実感できる、「文化芸術都市さいたま」の象徴的な事業として実施するもの。

2 シンボル事業のイメージ ～これまでのご意見を踏まえた整理～

- ①「国際的な発信力」を持つイベントであるとともに、「市民の文化芸術活動の促進」や「さいたま文化の発展」にもつながるものであること。
- ②多くの市民が共鳴し、実施に向けて市民の文化的な気持ちが集まり、参加したい、ボランティアとして支えたいと思わせるイベントであること。
- ③多面的、総合的なものとし、あらゆる層を引き付けるものであること。



本日、ご議論いただきたいテーマ

本市では、本意見交換会や文化芸術都市創造審議会のご意見を踏まえ、シンボル事業を、「さいたま市らしさ」を生かし「地域の活性化」や本市の「ブランド力の向上」にもつながる「他に類を見ない」先進的な国際芸術祭として、トリエンナーレ（3年ごとに開催）形式で開催したいと考えています。

つきましては、さいたま市の「地域特性」や期待する「地域の将来像」にも触れながら、

①国際芸術祭のコンセプトとして取り込むべき要素やキーワード

②望ましい事業展開のアイデア

に関するご意見をお聞かせください。

なお、現時点では、予算などの制約を考慮する必要はありません。

- 例)・さいたま市は〇〇〇といった特性があるので、その点に着目し、●●●をキーワードにして、△△△と□□□を組み合わせた事業を展開すると面白い。
- ・さいたま市には今後〇〇〇の都市になってほしいので、〇〇〇の開催を中心に考えた方が良い。

<これまでの主なご意見>

- さいたま市では合唱が非常に盛んであり、全国レベルの優勝校・受賞校を多く抱えている。こうした地域に根ざした合唱を活用し、優勝校の模範演奏や吹奏楽で金賞を取った学校の演奏、小中学校の合唱団などの協力を得て、大規模なイベントにしていけば、比較的コストをかけずに開催できるのではないかと。
- さいたまスーパーアリーナで音楽コンサートをやれば1万人を集めることができる。それを核にして、周辺で祭のようなイベントを秋のシーズンなどに1週間程度実施できると起爆剤になるだろう。
- 『マクベス』というオペラは、通常でも100人以上の合唱団が必要だが、これをさいたまスーパーアリーナにおいて、400人の合唱団により、蜷川演出でやるということも考えられる。
- 大宮は交通の要衝であるので、東北の祭を幾つか呼んで、さいたまの祭を合わせ、スーパーアリーナや周辺で、山車や神輿などが集まるイベントを開催してはどうか。

■参考資料

1 国内における主な国際芸術祭の開催状況

	水と土の芸術祭	横浜トリエンナーレ	あいちトリエンナーレ	神戸ビエンナーレ	瀬戸内国際芸術祭
コンセプト	市町村合併を経て政令市となった新潟市が新たな都市イメージを模索する中で、水と土との関わりに共通の成り立ちを見だし、そこにアイデンティティを求める。	1859年の開港以来、さまざまな文化を積極的に受け入れ、それらが交流し、新たな文化を醸成し、そして発信する都市として発展してきた横浜では、2004年に市の政策として創造都市政策を策定し、文化芸術が持つ力を活かしたまちづくりを推進。横浜トリエンナーレはそのリーディング・プロジェクトとして位置づけられている。 アートを通して、まちにひろがり、世界とつながり、横浜のまちづくりに寄与しつつ、新しい価値を世界に発信することを目指す。	○基本構想 経済面において、日本と世界をリードする一大拠点であるこの地域から、文化芸術面でも日本や世界に貢献していく。 ○開催目的 ・新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献する。 ・現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図る。 ・文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図る。	神戸は古くから陸海交通の要衝として栄え、国際港として発展。特に明治の開港を契機に、人・もの・情報の拠点として先駆性、多様性という文化風土を創り上げてきた。また、阪神・淡路大震災からの復興のなかで、人への思いやりの大切さや傷ついた心を癒し、勇気を与えてくれた芸術文化の力を体験したまちでもある。 こうした神戸のまちの歴史・経験を踏まえ、震災10年を機に「神戸文化創生都市宣言」を行い、文化を活かしていきいきと進化するまちづくりを目指すことを内外に発信した。そして神戸に芸術文化の力を結集して更なる振興を図るとともに、まちの賑わいづくりや活性化につながるための具体的な取り組みとして、2007年より2年に1度の芸術文化の祭典「神戸ビエンナーレ」を開催。	○海の復権（要約） 古来より交通の大動脈として重要な役割を果たした瀬戸内において、船は文化を伝えると同時に島々の固有の文化とつながり、美しい景観とともに伝統的な風習として伝わっている。島々の活力を取り戻し、瀬戸内海が地球上のすべての地域の『希望の海』となることを目指し、瀬戸内海の魅力を世界に発信する。 ○島×生活×アート（要約） それぞれの島で育まれてきた固有の民俗を活かし、島々で営まれてきた生活、歴史に焦点を当て、アートが関わることによって住民、特に島のお年寄りたちの元気を再生する機会を作り出す。活動の過程では、日本全国・世界各国から世代・地域・ジャンルを超えた人々が集い、次代を担う若者や子どもたちも含めた地域の人々と交流し協働することで、瀬戸内の未来を拓く大きな原動力となる。
沿革	2009年 第1回開催 2012年 第2回開催	2001年 第1回展開催 2005年、2008年、2011年 [計4回]	2010年 第1回開催	2007年 第1回開催 2009年、2011年 [計3回]	2010年 第1回開催 2013年 第2回開催中
最新の開催期間	2012年(平成24年) 7月14日～12月24日 [164日間]	2011年(平成23年) 8月6日～11月6日 [83日間]	2010年(平成22年) 8月21日～10月31日 [72日間]	2011年(平成23年) 10月1日～11月23日 [54日間]	2010年(平成22年) 7月19日～10月31日 [105日間]
開催テーマ	転換点 ー地域と生命(いのち)の再生に向けて	ヨコハマトリエンナーレ2011 OUR MAGIC HOUR ー世界はどこまで知ることができるか?ー	都市の祝祭 Arts and Cities	きら kira	アートと海を巡る百日間の冒険
会場	市内全域 ・市民プロジェクトは、市内全域で展開 ・アートプロジェクトは、信濃川下流域を中心とした市内各所で展開	主会場：横浜美術館、日本郵船海岸通倉庫 (BankART Studio NYK)、その他周辺地域	愛知芸術文化センター、名古屋市美術館、長者町会場、納屋橋会場 その他、名古屋城、オアシス 21、中央広小路ビル、七ツ寺共同スタジオなど	神戸ハーバーランド ファミリオ キャナルガーデン、ポーアイしおさい公園、兵庫県立美術館 ギャラリー棟3階、元町高架下 (JR神戸駅～元町駅間)	高松港周辺、直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島
主な事業	(1)市民プロジェクト ・市民プロジェクト(市民が企画立案し、実行委員会が支援) 応募162件、採択160件、実施137件 ・子どもプロジェクト(大学や教育関係者と連携し企画・運営) 実施回数77回、参加者数4,643名 (2)アートプロジェクト(実行委員会が作家・作品を公募・招聘) ・アート作品展示:参加作家59(海外8)、66作品 ・パフォーマンス:49団体 (3)シンポジウム:6回 みずつち学校:6回	○アート展示:参加作家数77組(79人)・1コレクション、作品数337件(734点) ○連携プログラム ・展示部門:計38イベント ・パフォーミングアーツ部門:計10イベント ・音楽部門:計2イベント ・セミナー・講座部門:計12イベント ・その他:計14イベント ○特別連携プログラム 「新・港村～小さな未来都市」 「黄金町バザール2011」	○現代美術の国際展:世界各国75組のアーティスト ○パフォーミング・アーツ:21組のアーティスト ○あいちトリエンナーレ2010プロデュースオペラ ○映像プログラム:世界各国の12名の映像作家による長短編映像70作品 ○企画コンペによる展覧会:愛知芸術文化センター9企画、長者町会場12企画 ○普及・教育:キッズトリエンナーレ、学校向け教育プログラム、ボランティアによるガイドツアー	○コンペティション:アートインコンテナ国際コンペティション、しつらいアート国際コンペティション、こども絵画コンクール等、計11部門 ○イベント:特別シンポジウム「きらめく日本の文化力」、きら kira コンサート、神戸ビエンナーレ2011スイーツスタンプラリー他 ○企画展示:招待作家展、いけばな未来展、工芸展、日本画展、障がい者公募作品展、天津招待作家展、文化庁メディア芸術祭ネットワークス、神戸の生活文化発信、書道展等、計17回	○18の国と地域から75組のアーティスト・プロジェクトと16のイベントが参加。屋外空間や民家などを舞台に、アートプロジェクトを展開。 うち6作品は(株)ベネッセ・ホールディングス、10作品は(財)直島福武美術館財団による設置。 ○芸術祭主催・共催イベントは、84イベント、延べ208回。 ○「市町の日」イベントでは、県内各市町がサンポート高松のデッキスガレリアで観光PR、物産紹介、郷土芸能の披露を行った。
来場者数	約72万人	約33万人	572,023人(当初想定30万人)	242,766人(目標20万人)	938,246人(目標30万人)
総事業費	約2.8億円	約9億円	約12.9億円	約2.85億円(見込み)	支出約6.89億円(収入約7.93億円)
経済効果	県内に及ぼす波及効果 約19.5億円 パブリシティ効果 約29.3億円	市内への波及効果 約43.6億円 パブリシティ効果 約45.6億円	県内に及ぼす波及効果 約78.1億円 パブリシティ効果 約47.3億円	未公表	約111億円

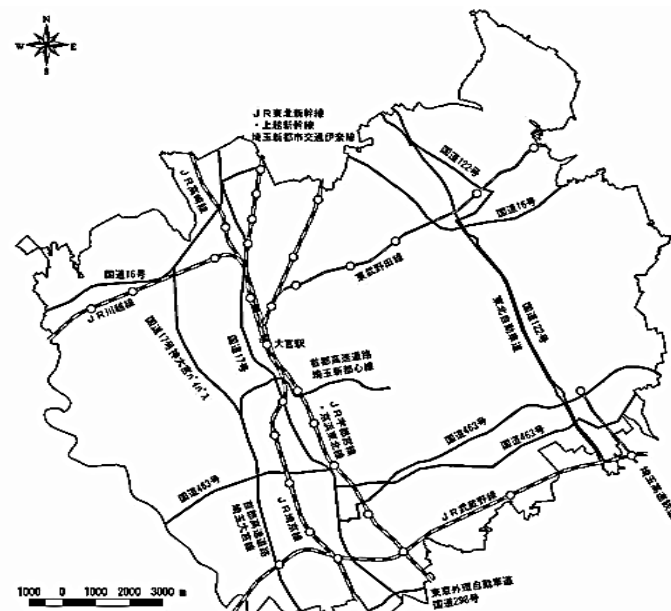
2 さいたま市の地勢

- ①関東ローム層の堆積した台地と河川の浸食により形成された河川低地からなる内陸都市。
- ②市内には荒川・鴨川・鴻沼川・芝川・綾瀬川・元荒川などの河川が流れ、荒川・芝川・元荒川沿いには広大な農地や樹林地が広がり、首都圏でも有数の緑豊かな自然環境が残されている。



【出典】さいたま市都市計画マスタープラン

- ③東北・上越など新幹線5路線を始め、JR各線や私鉄線が結節する東日本の交通の要衝であるとともに、東北自動車道などの高速道路の利便性にも優れている。



【出典】平成23年度さいたま市総合振興計画 次期基本計画策定のための基礎調査報告書

3 さいたま市の沿革

	旧浦和市	旧大宮市	旧与野市	旧岩槻市
中世	○地名の初見「武州浦和」(1396年『大般若経』)	○武蔵国一の宮・氷川神社の門前町	○地名の初見「与野郷」(1314年『融通念佛縁起絵巻』)	○地名の初見「岩付」(1382年『長谷河親次着到状』) ○岩槻城築城(室町時代後期)
江戸	○中山道の宿場町 ○日光御成街道の大門宿	○中山道の宿場町	○甲州街道と奥州街道を結ぶ脇往還の町場 ○荒川の舟運による近隣の物資集積地	○日光御成道の整備 ○宿場町・城下町として繁栄
明治・大正	○県庁設置 ○教育施設の充実 ○関東大震災を契機に画家などの文化人が移住	○大宮駅開設(明治18年) ○製糸工場の進出 ○日本鉄道株式会社大宮工場の操業開始・総武鉄道・省線電車・川越線などの開通に伴う交通の要衝	○与野駅開設(大正元年)	○武州鉄道岩槻・蓮田間の開通(大正13年)
昭和	○省線電車(現京浜東北線)の整備に伴う都市化 ○市制施行(昭和9年) ○9号国道(現国道17号)の開通 ○東京の衛星都市としての性格を強める ○新大宮バイパスや武蔵野線などの開通	○9号国道の開通などによる都市化 ○市制施行(昭和15年) ○商店街の形成(商業都市) ○東北・上越新幹線の開通(昭和57年) ○埼玉新都市交通伊奈線の開業(昭和58年) ○東北・上越新幹線の延伸・埼京線の開通(昭和60年)	○省線電車の開通(昭和7年) ○9号国道の開通(昭和9年) ○自動車関連産業の進出「自動車の街与野」 ○市制施行(昭和33年)	○総武鉄道(現東武野田線)大宮・粕壁間の開通(昭和4年) ○市制施行(昭和29年)
平成	○埼京線の開通(昭和60年) ○埼玉高速鉄道線の開通	○埼京線の開通(昭和60年) ○彩の国さいたま芸術劇場の開設(平成6年)	○埼京線の開通(昭和60年) ○彩の国さいたま芸術劇場の開設(平成6年)	○東北自動車道の開通・岩槻インターチェンジの設置(昭和47年)
さいたま市				

【資料】『さいたま市誕生 浦和市・大宮市・与野市合併の記録』(平成13年)、『新「さいたま市」誕生 さいたま市・岩槻市合併の記録』(平成18年)

4 さいたま市の特徴ある文化

①盆栽

大正末期、東京・本郷周辺に数多く点在していた植木職人や盆栽師が、関東大震災によって被災しました。その結果、盆栽の培養に適した広い土地、新鮮な水と空気を求めて、多くの盆栽業者が現在の北区盆栽町に移り住み、大正14年(1925年)に大宮盆栽村が誕生しました。現在でも盆栽町を中心に、10軒の盆栽園があり、世界の盆栽愛好家にその名を知られ、「盆栽の聖地」と呼ばれています。



盆栽園(北区)

②漫画

北沢楽天は、明治9年(1876年)に、大宮の旧家である北沢家の四男として生まれました。日本初のカラー漫画雑誌『東京パック』を創刊したことで、その名を広く知られています。それまで「ポンチ絵」などと呼ばれていたものを、「漫画」という名称で広め、知識人の鑑賞に堪えるものに高めたのは、楽天の業績です。昭和23年(1948年)、盆栽町に「楽天居」を構え、終の棲家としました。現在、その場所はさいたま市立漫画会館となり、楽天ゆかりの品や作品が展示されています。



東京パック



北沢楽天

③人形

江戸時代、日光東照宮の造営・修築を行った工匠たちがとどまり、その技術を生かして人形づくりを始めたことが、「人形のまち」岩槻の起源といわれています。その背景には、人形づくりに適した材木(桐)や水という岩槻の豊かな自然の存在がありました。現在では、豊かな自然や歴史を感じさせる風情ある景観とともに、多くの人形づくりの工房や店舗があり、いたるところで美しい人形を見ることができ、雅な雰囲気を感じることができます。また、季節ごとに、人形にまつわる行事や祭りが行われ、歴史あるまちに新たな賑わいを呼んでいます。



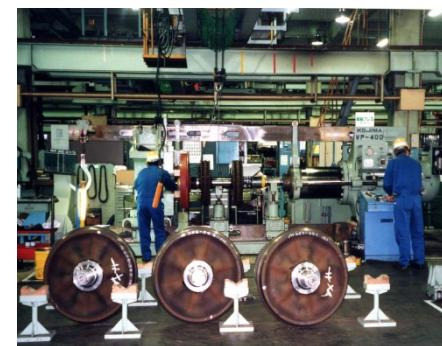
城址公園



人形塚

④鉄道

浦和、大宮は、中山道の宿場町として、また、古くから交通の要衝、拠点として栄えてきました。明治16年(1883年)の高崎線開通とともに、浦和駅が開業。明治18年(1885年)には、日本初の幹線鉄道の分岐点となる大宮駅が開業。明治27年(1894年)には大宮工場(現・大宮総合車両センター)の開業と同時に、日本三大操車場の1つ「大宮操車場」が整備され、「鉄道のまち」へと発展していくこととなりました。駅や施設の隣に、大勢の鉄道関係の職員や家族が暮らすようになり、生活文化をともにする地域社会がつけられたのです。現在、大宮駅は東日本最大のターミナル駅として、東北、上越新幹線をはじめ、9路線が集まり、1日約65万人の人々が乗り降りする拠点となっています。



JR大宮工場(現・大宮総合車両センター)

【出典】『さいたま市文化芸術振興計画』(平成18年) ※内容は平成18年時点のもの。